

Ⅲ 親しまれるレース場を目指して

【基本方針】

- 1 企業イメージの向上につながる取組を積極的に推進する。
- 2 地域に貢献する多目的施設として、北九州メディアドームの利用者数を引き続き確保する。

【取組項目】

1 イメージアップ事業の企画・実施

(1) イメージアップ事業の企画・実施

競輪事業の社会貢献性を発信するため、子ども食堂を**実施する**。

(2) 競輪事業の公益性の情報発信

競輪の収益金がJKA等を通して広く公益事業に活用されていることをJKAと連携しながら積極的に発信する。

2 施設の地域開放の促進

(1) 場内施設を活用した地域開放

ファミリー層が気軽に来場するきっかけを提供するため、夏まつりを毎年度開催するとともに、遊休スペース等を活用した地域開放を実施する。

(2) 景観の美化

競輪場のイメージアップを図るため、場内外の定期的な清掃の実施や景観の美化に取り組む。

(3) 本市観光振興への貢献

競輪の知名度向上と新たなファン層の拡大を視野に入れながら、本市産業経済局と連携し、インバウンドも含めた本市観光振興へ貢献する。

3 北九州メディアドームの貸館機能の充実

(1) 利用者の利便性の向上

利用者数を確保するため、申込手続きや利用料金等、利用に当たっての情報を分かりやすく発信する。

(2) イベント情報の発信

多目的施設としての役割を広く周知していくため、アリーナを使ったイベント等の情報を積極的に発信する。

【将来像Ⅲの指標】

指 標		目標値 ²⁰ (令和5年度)	改訂時実績	現状値
小倉競輪のイメージ調査 ²¹ 結果				
車券購入 未経験者	遊びに行きやすい	25%	15% (R3)	17% (H30)
	地域や社会に 役立っている	70%	63% (R3)	64% (H30)
車券購入 経験者	遊びに行きやすい	80%	67% (R3)	76% (H30)
	地域や社会に 役立っている	90%	85% (R3)	87% (H30)
施設利用関係				
北九州メディアドームの 年間利用者数（貸館）		100,000 人	12,225 人 ²² (R2)	99,279 人 (H29)

²⁰ 将来像Ⅲの指標における目標値については、改訂時の実績（R2.R3）が当初の目標値に達していないため、目標の見直しは行っていない。

²¹ 北九州市、中間市、遠賀郡、京都郡在住の20代以上の男女を対象とし、無作為に約500人からインターネット調査にて回答を集計。

²² 令和2年度は、新型コロナウイルスの影響のため、貸館を一時中止したこと等により利用者数が大きく減少している。

第6章【改訂】前期中期計画～ボートレース事業～



I 選ばれるレース場を目指して

【基本方針】

- 1 ナイターレース場（現在7場）が競合する中で、以下の取組により、本市売上額を安定的に確保する。
 - (1) ナイターレース場全体の普通開催売上額におけるシェアの拡大を目指す。
 - (2) 普通開催における場外発売協力場数の拡大を目指す。
- 2 S G競走等のグレードレースを誘致する。
- 3 既存ファンの確保と新規ファンの獲得により、本場来場者数の増加につなげる。
- 4 ボートレース業界の中央団体¹の施策を活用し、売上額向上につなげる。
- 5 受託発売²収入額の拡大を目指す。

【取組項目】

1 電話投票・場間場外売上額の確保

(1) 魅力あるレースの提供

ファンの購買意欲を高めるため、ボートレース若松オリジナルの企画レースやS G・G I競走等を開催する。

(2) 開催日程等の工夫

発売効果を高めることで売上額を確保するため、節³数増加等による柔軟な開催の実施を目指すとともに、ナイター開催時間のあり方を検証する。

(3) 積極的な情報発信

ファンの情報獲得の利便性や関心を高め、売上額向上につなげるため、スポーツ紙・専門誌による宣伝を引き続き実施するとともに、ホームページの利便性の向上やSNS等の活用の強化を図る。

(4) ファンサービスの充実

ファンの満足度向上を高めることで更なる舟券購入につなげていくため、電話投票顧客向けキャンペーンやボートレースチケットショップ⁴（以下「BTS」という。）顧客向けキャンペーンを効果的に実施する。

¹ 広域発売や競技の広報等を行う「一般財団法人 BOATRACE 振興会」及び各施行者の連絡調整機関である「一般社団法人全国モーターボート競走施行者協議会」のこと。

² 他の施行者が主催するレースを発売すること。

³ レースの開催期間のこと。最大で7日間連続して行われる。

⁴ ボートレース場以外で舟券が買える場外舟券発売施設のこと。本市には、北九州メディアドーム内に「ボートレースチケットショップ北九州メディアドーム」がある。

(5) 場間場外発売協力場・B T Sの拡大

ファンに舟券購入機会を提供していくため、各レース場・B T Sへの発売協力依頼等を実施する。

2 S G競走等の誘致

(1) S G競走等の誘致

年間売上額の増加や既存ファンの満足度向上、新規ファンの獲得、来場者の増加等につなげていくため、全国的に注目度の高いS G競走やプレミアムG I⁵競走等を誘致する。

3 本場来場者数の拡大

(1) 既存ファン向けサービスの充実

既存ファンの来場継続につなげるため、既存イベント・サービスに対するファン満足度を検証しながら、かっぱくんカード⁶利用者サービスの効果的な実施やキャッシュレス投票機の増設、ボートレース若松オリジナルグッズの企画・販売等を行う。

(2) 新規ファンの獲得のための取組の強化

来場のきっかけを提供し、新規ファン獲得や再来場の促進へとつなげていくため、タレントイベントやファミリー向けイベントの見直し、特別観覧施設R O K Uを活用した初心者向けイベント等を実施する。

(3) ボートレース若松の更なる認知度向上

ボートレース若松を知らない方々にも関心・興味を持ってもらうため、大型商業施設等での出張P Rブースによるキャンペーンの実施や交通拠点等での大型看板の設置を行う。

(4) 快適な空間の提供

ファンの再来場の促進へとつなげていくため、分煙やごみのポイ捨て対応など来場者のマナー向上に取り組むとともに、施設全体を対象とした改修に関する基本構想の策定の中で、来場者への快適な空間の提供についても検討し、計画的に施設・設備を改修する。

⁵ G I競走の中でも特に上位に位置づけられるレース。賞金も高く設定されている。

⁶ キャッシュレス投票用会員ICカードのこと。

(5) 来場者の実態把握

来場者の実態を把握し、本場来場者数拡大に向けた取組の検証や将来の来場者確保策を検討するため、かつぱくんカード利用者データに基づく来場者調査の結果やBOATRACE振興会（以下「振興会」という。）が定期的を実施する来場者実態調査の結果を活用する。

(6) 積極的な情報発信【再掲】

ファンの情報獲得の利便性や関心を高め、売上額向上につなげるため、スポーツ紙・専門誌による宣伝を引き続き実施するとともに、ホームページの利便性の向上やSNS等の活用の強化を図る。

(7) SG競走等の誘致【再掲】

年間売上額の増加や既存ファンの満足度向上、新規ファンの獲得、来場者の増加等につなげていくため、全国的に注目度の高いSG競走やプレミアムGI競走等を誘致する。

(8) 場内施設を活用した地域開放【再掲】

ファミリー層が気軽に来場するきっかけを提供するため、わかわくらんどとボルダリングパーク（レッド・ロック）の認知度・利用者数を向上させるとともに、夏まつりを毎年度開催する。

4 受託発売額の拡大

(1) 外向発売所「カップ☆ピア」⁷の充実【見直し】⁸

舟券購入者数を確保していくため、発売日数を確保するとともに、かつぱくんカード利用者サービスを効果的に実施する。また、施設の移転建替えにより、投票ホールの拡大や有料席の新設を行い、外向発売所機能を充実させる。

⁷ ボートレース若松（若松区赤岩町）に併設する舟券発売施設のこと。

⁸ 施設全体を対象とした改修の計画の中で、ファンサービスの充実のため、外向発売所の移転建替えを行うこととした。

(2) B T S北九州メディアドームの充実

舟券購入者数を確保していくため、発売日数を確保するとともに、購入者向けキャンペーンやかつぱくんカード利用者サービスを効果的に実施する。

【SG競走等のグレードレースについて】

レースのグレードは、「SG」「G I」「G II」「G III」「一般競走」の5段階に分かれており、上位のグレードほど賞金が高くなっている。



【将来像 I の指標】

指 標		目標値 (見直し後) (令和5年度)	改訂時実績 (令和2年度)	現状値
電話投票 (普通開催)	ナイターレース場全体の売上 額のうち若松が占める割合	15% ⁹	12%	15% (H29)
	売上額 (年間)	760 億円 ¹⁰	721 億円	280 億円 (H29)
	利用者数 (年間)	7.0 万人 ¹¹	6.7 万人	3.4 万人 (H29)
場間場外 (普通開催)	ナイターレース場全体の売上 額のうち若松が占める割合	15% ⁹	9.6%	15% (H29)
	売上額 (年間)	235 億円	144 億円	230 億円 (H29)
	協力場数 (年間)	延べ 70 場 ¹²	延べ 69 場	延べ 50 場 (H29)
S G 競走等の誘致		SG2 回 ¹³ (R5 まで)	SG1 回 PG I 1 回	SG1 回 (H30)
本場有料 入場者数	普通開催 (1 日あたり)	1,000 人	732 人	911 人 (H29)
	周年開催 (1 日あたり)	2,000 人	1069 人	1,824 人 (H30)
	S G 競走 (1 日あたり)	3,780 人	- 人	3,437 人 (H30)
本場有料席 (ロイヤル席) 利用者数 (普通開催 1 日あたり)		80 人	75 人	72 人 (H29)
かっぱくんカード会員数		4,500 人 ¹⁴	3,482 人	1,519 人 (H30.11 末)
本場 売上額	普通開催 (年間)	32 億円	20 億円	30 億円 (H29)
	周年開催 (1 開催あたり)	3 億円	2 億円	2 億円 (H30)
	S G 競走 (1 開催あたり)	6 億円	-	5 億円 (H30)
受託発売額 (年間)		110 億円	79 億円	102 億円 (H29)

⁹ 当初の目標値「17%」については、ナイター場が6場の状況で目標設定したが、現在は7場になり当初の目標値が現状と乖離したため、現状に基づいた目標値に下方修正した。

¹⁰ 当初の目標値「310 億円」については、電話投票の売上額等が好調なため、目標を上方修正した。

¹¹ 当初の目標値「3.5 万人」については、電話投票の売上額等が好調なため、目標を上方修正した。

¹² 当初の目標値「延べ 50 場」については、発売協力場数が増加したため、目標を上方修正した。

¹³ 当初の目標値「SG1 回 (H33 まで)」については、令和2年度の SG (R3 開催) 誘致により達成した。令和5年度までに再度誘致 (R6 開催) するため、目標を上方修正した。

¹⁴ 当初の目標値「3,000 人」については、カード加入者が増加したため、目標を上方修正した。

Ⅱ 健全な運営・信頼されるレース場を目指して

【基本方針】

- 1 計画的な施設・設備の改修に取り組み、安定的にレースを開催する。
- 2 発売体制及び事務の効率化や組織の強化等により、健全な業務運営に取り組む。

【取組項目】

1 安定的なレースの開催

(1) 計画的な施設・設備の改修 **【見直し】**¹⁵

施設・設備の老朽化や来場者ニーズ等に対応していくため、施設全体を対象とした改修に関する基本構想・基本計画を策定した。今後はその計画を踏まえ、計画的な改修を進める。

(2) 施設・設備の定期点検の実施

施設の長寿命化や改修コスト削減のため、定期保守点検や水上施設の総点検・メンテナンスを行う。

2 安全・安心な環境の提供

(1) 場内秩序の維持

場内トラブルを防止し、来場者に快適に過ごしてもらうため、警備員を適正に配置する。

(2) 緊急時の的確な対応

緊急時における役割を関係者間で共有し、的確な対応が取れるように、定期的な避難訓練の実施や、緊急連絡体制の点検を行う。

(3) ギャンブル等依存症対策への対応

ボートレースを安心して楽しんでいただくため、法令や国の動向等を注視し、中央団体や他のボートレース場と足並みを揃えながら、本市精神保健福祉センターとも連携して適切な対応を実施する。

3 業務運営の改善・効率化

(1) 発売体制の効率化

投票機器の更新時期の平準化や投票所の適正な開設、投票関係従事者の適正配置等を行う。

¹⁵ 当初計画での取組「施設全体を対象とした改修に関する基本構想の策定」は、令和元年度に完了し、続いて基本計画を令和3年9月に策定した。

(2) 事務の効率化

事務の効率化を図るため、契約内容の見直しやルーチン業務の改善等に取り組む。

(3) 本場施設改革改善相談**部署**¹⁶の活用

施設全体を対象とした改修に関する基本構想の策定や改修の早期実現、改修コストの削減を図るため、振興会による本場施設の**改革・改善への取組を支援する施策**を積極的に活用する。

(4) 自己点検・評価等の実施

本戦略の取組項目の進捗状況については、毎年度、自己点検・評価を行う。また、前期中期計画の中間評価として、**令和3年度内**に外部評価¹⁷を行う。

4 組織体制の強化

(1) 職員の専門性の向上

各担当業務の確実性・専門性を高めるため、職員研修の実施や職員による諸会議等への参加を積極的に行う。

(2) 組織活力の創出

職員の更なるモチベーション向上を図るため、ボートレース事業が社会貢献につながる事業であることを積極的に発信する。

(3) 会計年度任用職員の任用**【見直し】**

競走事業従事員¹⁸等の非常勤職員については、**令和2年4月**に会計年度任用職員制度への移行を行った。引き続き、適正かつ円滑に制度の運用を行う。

5 中央団体等との連携

(1) 中央団体等の施策の活用

効果的な収益向上を図るため、中央団体等の施策を積極的に活用する。

(2) 本場施設改革改善相談**部署**の活用**【再掲】**

施設全体を対象とした改修に関する基本構想の策定や改修の早期実現、改修コストの削減を図るため、振興会による本場施設の**改革・改善への取組を支援する施策**を積極的に活用する。

¹⁶ 施行者の本場施設の改革・改善への取組に対する協力を行う振興会の部署のこと。

¹⁷ 学識経験者、公認会計士、競輪・ボートレース関係者による外部評価を令和3年10月に実施した。

¹⁸ 舟券発売等の業務に従事する者のこと。

6 情報公開

(1) 財務諸表等の公開

地方公営企業としての経営の透明性を確保するため、ホームページ等に財務諸表等を公開する。

(2) 本戦略の公開

ボートレース事業の理解の促進を図るため、ホームページ等に本戦略を公開する。

7 収支計画

(1) 長期収支表 **【更新】**

別表のとおり。

令和5年度以降の各年度の見込金額は、令和3年10月末時点で試算した金額を記載しているため、各年度の予算額を表したものではない。予算額については、毎年度の開催日数や売上状況、決算状況等をもとに決定していくこととなる。

なお、令和6年度以降については、後期中期目標・計画の策定に合わせ、令和5年度内に見直すものとする。

(2) 収益的収支**見込み**の考え方

①収入

- ・年間開催日数については、168日で見込んでいる。営業収益のうち、舟券発売金は、令和2年度の実績を基に見込んでいる。
- ・SG競走は計画6年次（令和6年度）、10年次（令和10年度）に、GI競走は周年記念を毎年度、九州地区戦を計画4年次（令和4年度）、9年次（令和9年度）に開催する予定で見込んでいる。

②支出

- ・レースの開催に必要な経費を計上している。営業費用のうち、販売促進費、委託料等は平成30年度～令和2年度の実績より算出。
- ・職員給与費は、令和3年度の実配置人員、給与水準を基に見込んでいる。
- ・減価償却費を費用として計上している。

(3) 資本的収支**見込み**の考え方

①収入

- ・新たな企業債の発行は見込んでいない。
- ・自己資金である競輪競艇整備基金からの繰入金及び公債償還基金からの繰入金を収入としており、単年度資金収支が均衡する金額を計上している。

②支出

- ・施設及び設備の改修に必要な費用や企業債償還に必要な費用、出資金等を計上している。
- ・一般会計繰出金は、令和2年度実績額を基礎として大きな収益が見込めるSG競走開催を見込んだ年度は上積みを設定している。

長期収支表

項 目		－	1年次	2年次	3年次
		H30決算	R1決算	R2決算	R3予算
		SG(オーション)	G I (ダイモント)	PG I (BBCT)	SG(オールスター)
収益的収支	収益的収入	75,565	79,563	109,913	143,359
	営業収益	75,453	79,489	109,868	143,296
	営業外収益	100	74	45	63
	特別利益	11	0	0	0
	収益的支出	72,835	74,694	100,124	133,518
	営業費用	72,311	74,619	100,014	133,429
	減価償却費等	839	624	725	823
	営業外費用	59	75	109	89
	特別損失	465	0	0	0
	収支差引	2,730	4,869	9,789	9,841
資本的収支	収入	909	1,793	1,400	1,300
	企業債	0	0	0	0
	基金繰入金	900	1,793	1,400	1,300
	出資金	0	0	0	0
	その他収入	9	0	0	0
	支出	4,130	3,657	4,615	7,236
	建設改良費	1,582	291	447	455
	企業債償還金	197	477	183	351
	投資	851	1,390	1,385	1,430
	基金積立金	151	125	120	130
	出資金	700	1,265	1,265	1,300
	一般会計繰出金	1,500	1,500	2,600	5,000
	差引過不足	▲ 3,222	▲ 1,864	▲ 3,215	▲ 5,936
補填財源	収支差引(収益的収支)	2,730	4,869	9,789	9,841
	損益勘定留保資金等	1,601	600	724	837
	計	4,331	5,469	10,513	10,678
資金収支	単年度収支	1,109	3,604	7,299	4,742
	累積資金	2,552	6,156	13,455	18,197
基金残高	競輪競艇整備基金	11,778	10,109	8,735	7,471
	公債償還基金	376	377	471	565
	計	12,154	10,486	9,206	8,036
企業債残高	2,191	1,714	1,531	1,180	
利益処分	利益剰余金	2,613	4,806	9,756	9,812
	一般会計繰出金	1,500	1,500	2,600	5,000
	建設改良積立	513	0	5,161	2,312
	取崩	0	0	0	0
	残高	513	513	5,674	7,986
	繰越利益剰余金	600	3,306	1,994	2,500
	残高	600	3,906	5,900	8,400

第6章【改訂】前期中期計画～ボートレース事業～

後期中期目標・計画期間

単位：百万円

4年次	5年次	6年次	7年次	8年次	9年次	10年次
R4予算見込	R5見込	R6見込	R7見込	R8見込	R9見込	R10見込
GI(地区選)		SG			GI(地区選)	SG
128,199	101,987	117,786	101,962	101,962	107,786	117,786
128,136	101,942	117,766	101,942	101,942	107,766	117,766
58	45	21	21	21	21	21
4	0	0	0	0	0	0
120,282	94,292	108,599	94,278	94,211	99,375	108,727
120,136	94,162	108,466	94,144	94,087	99,255	108,610
812	895	1,057	988	1,056	1,070	1,155
145	128	132	133	123	120	116
1	1	1	1	1	1	1
7,917	7,695	9,188	7,684	7,751	8,411	9,060
1,564	1,350	600	883	1,300	0	0
0	0	0	0	0	0	0
1,543	1,350	600	883	1,300	0	0
0	0	0	0	0	0	0
20	0	0	0	0	0	0
9,294	6,613	5,077	6,555	6,210	5,636	6,210
2,514	2,113	352	2,547	1,872	2,636	2,210
158	38	38	908	38	0	0
1,623	1,462	687	100	1,300	0	0
123	112	87	0	0	0	0
1,500	1,350	600	100	1,300	0	0
5,000	3,000	4,000	3,000	3,000	3,000	4,000
▲ 7,731	▲ 5,263	▲ 4,477	▲ 5,672	▲ 4,910	▲ 5,636	▲ 6,210
7,917	7,695	9,188	7,684	7,751	8,411	9,060
881	886	1,048	980	1,047	1,061	1,146
8,798	8,581	10,236	8,664	8,798	9,473	10,206
1,067	3,318	5,759	2,992	3,888	3,837	3,996
19,264	22,582	28,341	31,333	35,221	39,057	43,053
6,006	4,681	4,081	3,981	2,681	2,681	2,681
609	696	783	0	0	0	0
6,615	5,377	4,864	3,981	2,681	2,681	2,681
1,022	984	946	38	0	0	0
7,709	7,695	9,188	7,684	7,751	8,411	9,060
5,000	3,000	4,000	3,000	3,000	3,000	4,000
1,309	2,295	2,588	2,284	2,351	2,611	2,460
0	0	0	2,405	1,746	2,523	2,110
9,295	11,590	14,178	14,057	14,662	14,750	15,100
1,400	2,400	2,600	2,400	2,400	2,800	2,600
9,800	12,200	14,800	17,200	19,600	22,400	25,000

※ 表中の金額は、四捨五入による端数を調整していないため、内訳と計は必ずしも一致しない。

Ⅲ 親しまれるレース場を目指して

【基本方針】

- 1 企業イメージの向上につながる取組を積極的に推進する。
- 2 クレカ若松を地域交流拠点として定着させる。

【取組項目】

1 イメージアップ事業の企画・実施

(1) イメージアップ事業の企画・実施

ボートレース事業の社会貢献性を発信するため、子ども食堂やパラアスリートのスポンサー支援等を行う。

(2) ボートレース事業の公益性の更なる情報発信

ボートレース事業の収益金が本市の一般会計の財源として役立てられていることや日本財団等を通して広く公益事業に活用されていることを積極的に発信する。

2 施設の地域開放の促進

(1) 場内施設を活用した地域開放

ファミリー層が気軽に来場するきっかけを提供するため、わかわくらんどとボルダリングパーク（レッド・ロック）の認知度・利用者数を向上させるとともに、夏まつりを毎年度開催する。

(2) ボートレースパーク化¹⁹の推進**【見直し】**²⁰

地域に親しまれるボートレース場の実現のため、振興会が推進するボートレースパーク化に向け**施設整備の基本構想・基本計画を策定した。今後はその計画を踏まえて、西スタンド棟改修及び地域貢献エリア新設に向けた基本設計・実施設計を行う。**

(3) 景観の美化

ボートレース場のイメージアップを図るため、場内外の定期的な清掃の実施や景観の美化に取り組む。

¹⁹ ボートレース場をスポーツ・文化の発信基地や地域住民の健康増進・憩いの場等として、地域との共生を目指す構想のこと。

²⁰ 当初計画での取組「施設全体を対象とした改修に関する基本構想の策定」は、令和元年度に完了し、続いて基本計画を令和3年9月に策定した。その結果を踏まえ、基本設計、実施設計を進めるための取り組みに変更した。

(4) 本市観光振興への貢献

ボートレースの知名度向上と新たなファン層の拡大を視野に入れながら、本市産業経済局と連携し、インバウンドも含めた本市観光振興へ貢献する。

3 クレカ若松の利用促進

(1) 認知度の向上

SNS等を通じた情報発信を積極的に行うとともに、利用が見込まれる団体等への周知活動を行う。

(2) 利用者の利便性の向上 **【見直し】**²¹

インターネットでも施設の利用申し込みができるよう申し込み方法の見直しを行う。

(3) 災害時の施設提供

災害時の避難施設として、避難者の受入可能な環境を整備する。

²¹ 当初計画での取組「施設の申し込み方法の見直しを行う。また、使用料金等の見直しを検討する。」のうち、使用料金の見直しについては、令和3年度より時間帯別料金から時間単位料金に変更した。

【将来像Ⅲの指標】

指 標		目標値 (令和5年度)	改訂時実績	現状値
ボートレース若松のイメージ調査 ²² 結果				
舟券購入 未経験者	収益金が本市財源に 充てられていることを 知っている	45%	35% (R3)	39% (H30)
	遊びに行きやすい	25%	13% (R3)	15% (H30)
	地域や社会に役立って いる	70%	61% (R3)	59% (H30)
舟券購入 経験者	収益金が本市財源に 充てられていることを 知っている	74% ²³	70% (R3)	63% (H30)
	遊びに行きやすい	80%	69% (R3)	71% (H30)
	地域や社会に役立って いる	90%	84% (R3)	82% (H30)
施設利用関係				
年間利用 者数	わかわくらんど	1.5万人	0.04万人 ²⁴ (R2)	1.5万人 (H29)
	レッド・ロック (ボルダリングパーク)	3,600人	1,184人 (R2)	—
年間利用 件数	クレカ若松	350件 ²⁵	298件 (R2)	100件 (H30.12)

²² 北九州市、中間市、遠賀郡、京都郡在住の20代以上の男女を対象とし、無作為に約500人からインターネット調査にて回答を集計。

²³ 当初の目標値「65%」は、令和3年度の調査で達成したため、上方修正した。

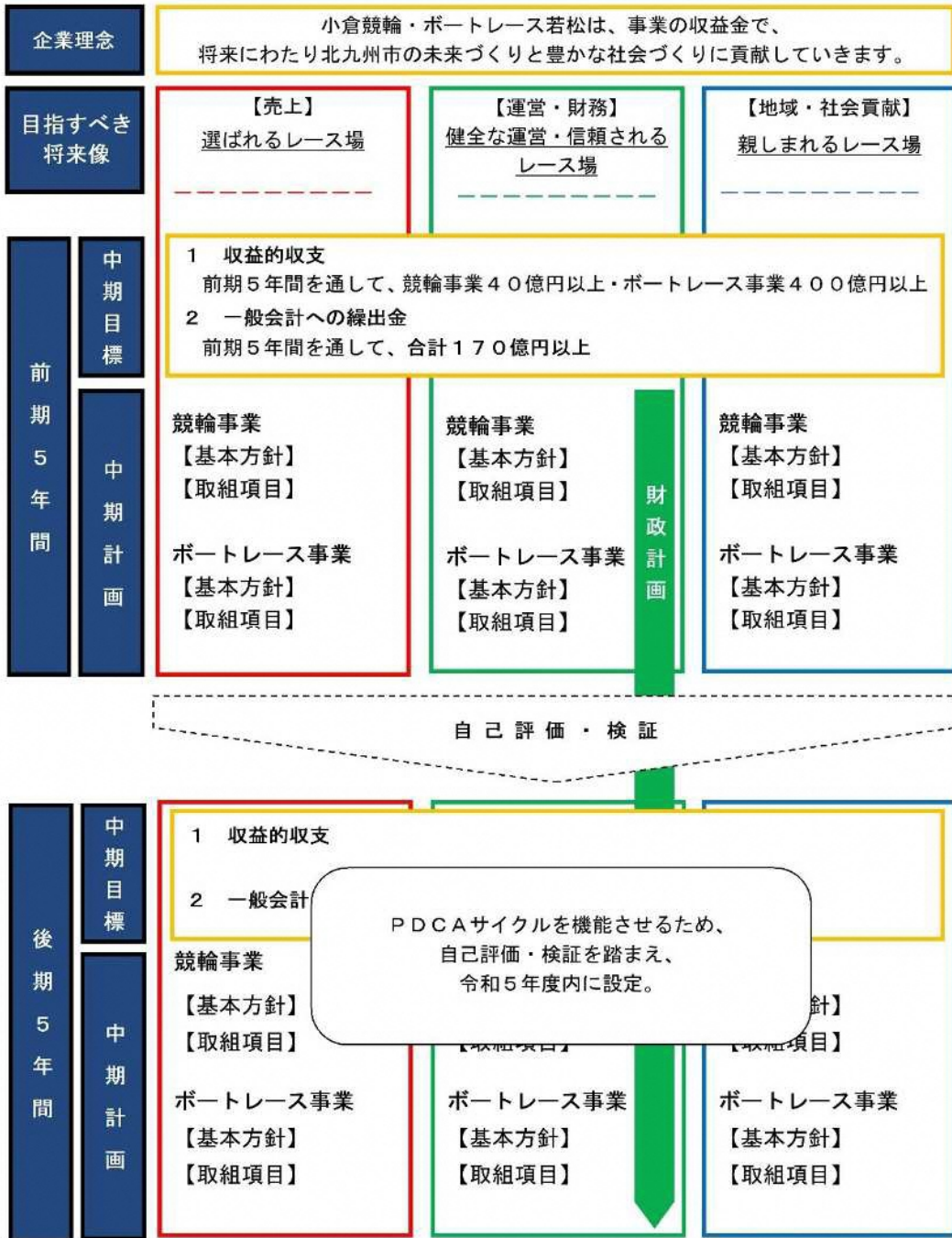
²⁴ 令和2年度は、新型コロナウイルスの影響のため、利用を一時中止したこと等により利用者数が大きく減少している。

²⁵ 当初の目標値「200件」は、令和2年度の実績で達成したため、上方修正した。

第7章 後期中期目標・計画

P D C Aサイクルを機能させるため、前期中期目標・計画の自己評価・検証等を踏まえ、令和5年度に後期の中期目標・計画（令和6年度～令和10年度）を策定することとします。

経営戦略 全体イメージ図



〈参考〉

北九州市公営競技局SDGs経営宣言

北九州市公営競技局では、2030年までの世界共通の目標であるSDGsの達成に向け、「北九州市公営競技局SDGs経営宣言」¹を策定し、SDGsに取り組んでいます。

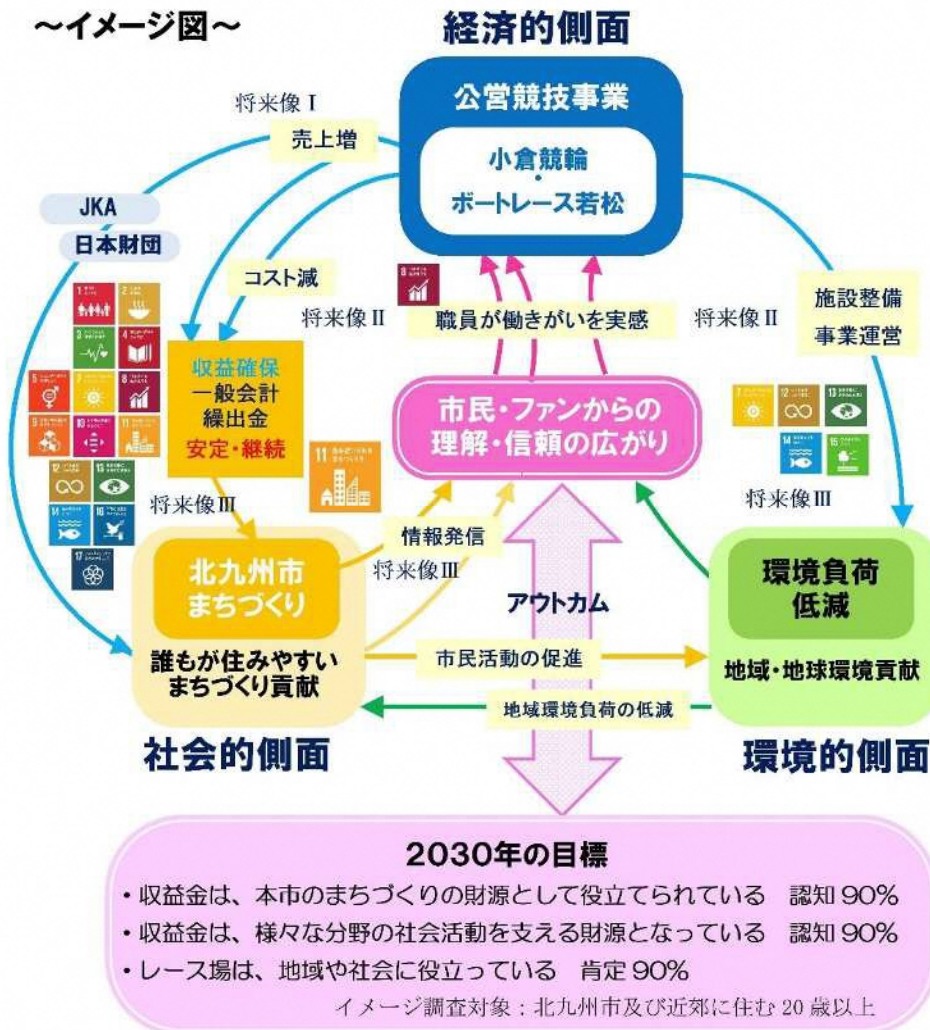
北九州市公営競技局 2030年の未来像

小倉競輪・ボートレース若松が選ばれるレース場として、市民から信頼され、必要とされる存在となつて、職員が働きがいを実感できる地方公営企業であり続けること

～基本的な取組～

- 取組 1 経済、社会、環境の3つの側面が調和する事業活動を行う。
- 取組 2 経営戦略の策定にあたっては、2030年の未来像（目標）を起点にしたバックキャストिंगの考え方を取り入れる。
- 取組 3 競輪・ボートレース事業の「主な取組」と「SDGsのゴール」との関連づけを行い、積極的に発信していく。
- 取組 4 各係は、係として関心を持ちたいSDGsのゴールを掲げる。
- 取組 5 日々の業務での判断基準に「六方よし」の発想を取り込む。

～イメージ図～



¹ SDGsの達成に向けて“公営競技局の2030年の未来像”を設定し、そこに進んでいくための基本的な取組を宣言したもの。「北九州市公営競技局SDGs経営宣言」の全体版は公営競技局HPをご参照ください。

〈参考〉

外部評価委員一覧

本経営戦略の前期中期計画（令和元年度～令和5年度）の中間評価として、経営戦略の令和元年度～令和2年度の取組結果について外部評価を頂きました。

（敬称略）

学識経験者	柳 井 雅 人	北九州市立大学 副学長（経済学部教授）
学識経験者	日 高 京 子	北九州市立大学 基盤教育センター教授
公認会計士	藤 田 和 子	藤田公認会計士事務所 所長
競輪関係者	大 久 保 修 次	全国競輪施行者協議会事務局次長兼企画部長
ボートレース 関係者	川 津 大 輔	全国モーターボート競走施行者協議会総務部担当部長

北九州市公営競技事業経営戦略

【第1次改訂版】

発行年月日 令和4年3月

編集・発行 北九州市公営競技局

住 所 等 〒808-0075 北九州市若松区赤岩町 13-1

TEL 093-791-5010 FAX 093-791-1476